



クローズアップ CLOSE UP

朔太郎賞贈呈式を開催

11月25日、前橋文学館で萩原朔太郎賞贈呈式を行いました。受賞者の岡本啓さんは「前橋の人々に愛される賞を受賞でき光栄です」とあいさつ。詩と歩いていくと題した記念講演では、受賞作『絶景ノート』の創作背景にある旅先での出来事を語りました。



前橋で働き育むを両立

11月26日、「はたらきはぐくむPROJECT」のトークとワークショップを開催。ゲストスピーカーの実体験に基づく提案には参加者も大納得。女性も男性も一緒になって、仕事と子育ての両立による幸せを実現し、一步を踏み出す知恵を熱心に話し合いました。



この歌で前橋を元気に

県内で活動する女性4人組バンド、チェリー☆マーメイドが市長を訪問し新曲「ゴーゴー前橋いいだんべえ」を披露しました。「私たちの活動でたくさんの方が笑顔になれば」とメンバーの沢田馨さん。この歌を広め、前橋を元気にしたいと決意を語りました。

CITY WATCHING

「花の神様からのプレゼントだと思っています。これから、この贈り物を多くの人と分かち合いたいですね」
卓越した技能を持つ第一人者を国が表彰する「現代の名工」。フラワー装飾師としては県内初の受賞となった。
「花の好きな人は数多くいます。フラワーデザインの楽しさを伝えて、花の姿を借りて自分を表現する喜びを知って欲しいです」
日々の暮らしの中で見るもの触れるもの全てが先生。食事中でも散歩中でも、インスピレーションを受けたことをメモし、作品に生かしている。
「ドイツの花の学校から学

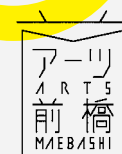
び影響を受けました。花が本来持っている姿や色などの個性を生かし、花そのものの美しさを見ることが本質です」
「花も人が活ければ心が宿り、物ではなく人になる」と話す。その姿勢が作風や指導方法に見える。素材は枯れ葉などに命の躍動感がある作品などがその表れだ。広い視野を持ち、美の探究につなげる。
「どんな分野でも、まず本物に触れることです。一流の物、本質的な物は感受性の高い子どもにも強く響きます」
生き方や作品を作る姿が周りに影響を与え、導きとなる。今後も田子さんの世界はますます充実するだろう。

いきいき
まえばし人
フラワー装飾師
田子千代美さん
石関町



個性生かし美を見いだす

アーツ前橋の 舞台裏 vol.5



アーツ前橋の学芸員が美術館の舞台裏や自身のバックグラウンドなどを披露。第5回は小田久美子が工作に使う素材についてお送りします。

アーツ前橋
027・230・1144

アーツ前橋では展覧会だけでなく、テーマに沿って市民の皆さんと一緒に活動するイベントも実施しています。物作りのイベントを考えると、その内容の決め手となるのは素材です。しかし、テーマはあるのに素材が決まらず、企画がやっとの思いで進むこともありました。
現代の美術が絵画や彫刻だけではないように、イベントで使用する素材も多様化しています。空き箱やペットボト

ルのほか、木の実や枝などの香り、手触りが豊かな素材を使うことも。子どもが対象のイベントでは、安全性や使いやすさだけでなく、柄が発想の妨げにならないかなども素材選びのポイントとなります。日頃から素材や子どもの関心調査のため、動画サイトを見たり、おもちゃ屋や100円ショップへ行ったりします。中でも一番長くいるのはホームセンターの資材コーナーです。前橋は農業が盛んな土地柄、ホームセンターが多く、大容量で柄の少ない商品が豊富にあります。資材や自然物など、別用途の物を素材にするには検証が必要ですが、「あ、これ使えるかも」と街や自然を鑑賞しながら歩くのは楽しいものです。

